

# 極早生のピンク系グラジオラス新品種 「常陸はつこい」（品種登録出願中）の育成

農業総合センター生物工学研究所・園芸研究所

本県のグラジオラスは切り花生産で全国3位（平成26年）の重要な花き品目です。消費の低迷や高齢化などにより生産が停滞し、生産現場から産地の活性化を図るため県オリジナル品種の育成を求める声が強くなりました。そこで、流通量の少ない5月に出荷できるサーモンピンクの極早生品種「常陸はつこい」を育成しました。

## 「常陸はつこい」の特徴

- ・花色はサーモンピンクで、黄色のぼかしが入る大輪系です（写真1）。
- ・極早生で、季咲では75日程度、促成栽培では120日程度で開花します。
- ・切花長は「トラベラ」よりやや短く、切花重は軽く細身ですが、花数や花径は同等で同時開花数が多いため、ボリューム感があります。
- ・木子着生量が多く、球根増殖が良好です。



写真1 「常陸はつこい」の花容

表 促成栽培<sup>1)</sup>における「常陸はつこい」の特性

品 種	花色	開花日	切花長 (cm)	切花重 (g)	花数 (個)	花径 (cm)
常 陸 はつこい	サーモン ピンク	5/24	96	83	16	10.9
トラベラ	鮮ピンク	6/1	112	187	17	11.0

1) マルチ+トンネル被覆栽培。1月23日定植（平成25年）

## 普及に向けて

平成29年に現地試作・試験販売を行い、流通量の少ない5月に高単価で販売できました。

生産者からは促成栽培で作りやすいと評価されており、また、市場からは花の大きさと花形が高く評価され、早期出荷できるピンク系品種として期待されています。

種苗は茨城県グラジオラス球根協会を通して平成29年度に供給予定です。

## 栽培管理のポイント

- ・マルチとトンネル被覆を組み合わせた促成栽培により、5月中旬に開花します（表）。
- ・穂やけ症が出やすいため、7月以降の高温期の出荷作型は控えてください。



写真2 現地検討会の様子